

2016 年度第 2 回 日本学連幹事会 資料

開催日時：2016 年(平成 28 年)9 月 10 日(土曜日) 15:00~22:00

開催会場：長野県諏訪郡富士見町 プチペンション ジョナサン

議題と関連資料

3. 全日本大会と地区学連ロングセクションについて

資料 1 全日本オリエンテーリング大会プロデューサ就任について

資料 2 全日本オリエンテーリング大会プロデューサ就任について (追記 1)

資料 3 全日本大会 (ロング) プロデューサ演説 その 3

資料 4 日本学生オリエンテーリング連盟へのお願い 全日本大会への協力について

7. 東海インカレでの事故について

資料 別添

9. 関東ロングセトラブルについて

資料 5 体育館利用に関する報告書

資料 6 関東学連再発防止策

平成 28 年 9 月 5 日

全日本オリエンテーリング大会プロデューサ就任について

(有) ヤマカワオーエンタープライズ

山川克則

私、ヤマカワオーエンタープライズの山川は、2016/5/6 付け日本オリエンテーリング協会（以下 JOA）公示において、**全日本オリエンテーリング大会（ロング）プロデューサに就任**いたしました。ここに至るまでの経緯と今後全日本大会をどのようにしていこうと思っているのか、それにはオリエンテーリング各団体、各競技者にどのようなことを訴えたいのか、お願いしたいのか、一度文章にしてここでまとめておきたいと思います。本来ならすぐにでも発表すべきところを、ここまで遅れてしまって誠に申し訳ありません。相変わらず常時忙しいのに、スマートに仕事できない不恰好な生き様で熱意や思いが先行し勝ち（& 言い訳には出来ないが、慢性病による健常人より限られた時間）、しかもこの問題はとても根が深いのに、多分そうは思っていないだろう人達に、ちゃんと理解できるような説明が（文章を書くのか下手な）私にそれができるのか、と逡巡しているうちに（つまりとても気の重いまま）このタイミングになってしまいました。相変わらず読みづらいかもしれませんが、少なくとも誤解を元にわが国のオリエンテーリングの将来を語ってほしくない、未来はみんなで考えていこうよ、という立場に多くの方が立ってもらいたい、という思いから書いていきます。なので、かなり重い内容（重い問題だと認識して欲しい内容）になっています。特に、学生オリエンテーリング界に対するオリエンテーリング界全体への関わりについて、大きく見直しましょうということを述べています。日本学連関係者においては、予告的な話が先行し、資料出しが遅れて済みませんでした。検討すべき課題を、できるだけ詳細に判り易いように努力して書いたつもりですので、9月幹事会、11月総会、1月幹事会で議論を深めていただき、3月総会では一旦の結審をお願いするものです。（中で展開する詳論では、もっと前倒しで方向性を議論していただく項目もあります）

全日本大会の開催危機！？＜志望動機＞

昨年度に、JOA の財政危機・存立危機という話が、会員である各都道府県オリエンテーリング協会（以下、県協会、もしくは JOA 会員で短く表記）からの下部団体への情報伝達、およびオリエンティアマーリングリスト（以下 OLML）などを通じて駆け巡りました。その時に JOA（主に理事会）から提示された改善策が、登録費の大幅値上げという策でした。それ以外にも会員の会費および指導者登録費の一部が“組織育成費”として会員にキックバックされていたのが廃止され、また公認大会に対して“JOA 会員支援金”として、一人 1 大会 1000 円（スプリントは 500 円）参加費を上乗せして徴収し、納金することになりました＜JOA の web “規定” 2016.2.7 付＞。その話と前後して、同じ時期、正確には少し前に、もう一つ JOA の屋台骨を揺るがず様な話が出ていました。それが、“全日本大会(ロング)の開催危機”という問題です。

全日本大会は、この 3 月の愛知県岡崎市で行われた全日本大会までで、開始以来毎年欠かすことなく 42 回を数えています。資料は下記。

＜全日本大会開催地・開催日（JOA のページ）＞<http://www.orienteering.or.jp/event/joc.php>

＜全日本大会データ＞（原野さんまとめ）<http://www2u.biglobe.ne.jp/~harano/ol-age/teigen-4.pdf>

実際には愛知の次の全日本開催が決まっていない。地区当番は、関東ブロック（関東ブロックは 3

年に1回)現状では、どこも引き受け手がない。3年前にも同じようなことがあり、役員を関東ブロック全体で引き受けてくれるのなら、トレインは提供してもよいよ、ということで長野県菅平高原で行ったものです。この時も地図作成面では、関東全域からスタッフを呼び費用が高むので地図面で十分な費用は出せないが、リメイクだし何とかやれる範囲で協力して欲しい、ということで強く頼まれてヘルプに入りました。同じようなことは関東の当番であった第32回でも第35回でも私はスタッフとして関わっています。その頃から私なりに、“(開催危機だから助けてくれと言われて協力してきたけど)全日本大会これで良いのか?”というスタッフとして関わっての思いは、その度に強くもってしまして、折に触れてJOAの関係者には色々意見していました。しかし、相変わらず全日本は同じように何とかしましょう…で進んでいきます。菅平の全日本も何かと反省点・問題点の多い大会ではあったのだけれど、この大会を推進したJOAの業務執行理事である木村氏もこの全日本のフレームでは将来が見通せない、と思うに至ります。まずJOA内部の役員でワーキンググループ(以下WG)を作り討議が始まりますが、その1次WGでは問題提起に留まり、議論にほぼ進展は無かったと聞いています。(2015.3.8付けJOA公布資料の中に記載)。そして、パブリックコメント(一次)募集、第2次WGを公募、と進んでいきます。かねてよりJOAに意見する時は、外からでは何も変わらないと思っていた私は、これはプロ事業者の立場で、ここが、ちゃんと正統にモノが言える場だと思い公募に志願しました。そして第2次WGの中で活発な議論が開始されました。全日本大会の開催不能状態に対し、具体的な解決案をJOA理事会に答申することが目的です。以下関連のJOA公式広報のページを列記します。

JOA 広報アーカイブ <<http://www.orienteering.or.jp/archives.html>>

2015.03.09 [全日本オリエンテーリング大会を考える、パブリックコメント募集](#)

2015.05.25 [全日本オリエンテーリング大会を考えるワーキンググループ 2015 メンバー募集](#)

2015.06.29 [全日本オリエンテーリング大会を考える、パブリックコメント公開](#)

2015.10.21 [平成 29 年\(2017 年\)以降の全日本オリエンテーリング大会のあり方について、第2次中間報告とパブリックコメント募集](#)

2016.01.04 [全日本オリエンテーリング大会を考える、第二次中間答申に対するパブリックコメント公開](#)

2016.03.28 [全日本オリエンテーリング大会プロデューサ募集について](#)

2016.05.06 [全日本オリエンテーリング大会プロデューサ決定指名について](#)

そもそも全日本大会は必要な大会なのか？

パブリックコメント募集に際しては、以下の4要件に対して、広くオリエンティアから意見を求められました。

・毎年開催 ・地方持ち回り ・年齢別選手権大会 ・ロングディスタンス競技の日本選手権大会

このうち寄せられた意見は“全日本大会”は続けて欲しいということで、「地方持ち回り」は違うのではないかと。あと広いエリアが確保するのが難しければ2マップでもよいのではないかと、などが寄せられました。実際に寄せられた意見は上記のリンクで詳しく掲載されていますので、時間のある方は見ていただければ良いかと思います。WGの中で、私は以下の視点で重点的に議論を展開することになります。

私が“全日本(ロング)大会”は絶対に無くなってはいけない大会だから協力してくれ、と過去代々言われてきて、実際に色々な事情から参加者にとって満足いく大会までもっていくことができなかつた大会も自ら自覚していますが、最低限何とかはしてきました。(実際、何とかするという観点において、

逆説的ですが、この日本に私以上の人材はきっといないでしょう。) それで、色々な意見はあるもの、私自身の意見も、“全日本は何としても継続しなければいけない。”です。なぜなら、それは「全日本大会」という名の通り、日本のオリエンテーリング界を代表する(第一優先の)大会であるから。多分、インカレ向かう強烈なモチベーションを若いときに大きくは経験していない世代、だいたい40代後半位から上の世代はそう思っているのではないのでしょうか?だとすると、問題は何なのか?パブリックコメントでも切り込まれていない側面から、私の議論は展開していきました。

現状、全日本大会の参加数は交通が便利な所で開催しても500人~650人がよい所、前出45歳位から上の年代が、都合が悪くない限りオリエンティアとしてほぼ全日本大会に参加する層、それから下(いわゆる地域クラブ等の関わりがあまりなく大学でオリエンテーリングを始めた年齢層)は、徐々に参加率が下がっていき、学生および卒業して5年以内位の層は普段オリエンテーリング活動していながら全日本に参加するのは半分以下、というのが現状です。つまり若いオリエンティアの半数以上は、全日本大会は大切な大会だとは思っていない。魅力ある大会ではないので、参加しようという気持ちも起きない、という現状があります。出てくる人は、年齢別選手権として真剣勝負なので、その価値を下げると言うつもりは毛頭ありませんが、苦勞して地図を準備していても、本来あるべき対決の様が現出できないことには一番時間のかかる裏方作業(地図製作)に関わるものとして、ここ数年残念な気持ちも一杯でした。

そしてそれは、大会運営の財務にも大きな影響があります。オリエンテーリングは生涯スポーツです。ほぼすべての年齢層が参加するのであれば(インカレと公認大会がコラボした最近の例をみても)一時の底値状態は脱して、だいたい900~1000人位の集客力があるはずですが、600人と1000人では、準備する内容がほぼ同じであるのに、会計規模に大きな差が生じます。しかも種目はロング、地図面積の大きい負担の大きい種目です。そこが実は、地方協会が財政的に疲弊してしまう元凶だったりするのです。

もう一つの側面は、否応無く全ての人々が年を取っていく、ということです。高齢者はもっと年を重ねて、いずれ動きは悪くなる、若い人もどんどん高齢者の仲間に入っていく、その状態で今、各県協会のリーダー(大抵は45歳以上)が、苦勞して何とか(プロの力を一部借りたとしても)全日本大会をやりとげたとしても、現状の若い人の半分以上に見向きもされていない状態で、果たして10年先が見通せるでしょうか?

WG内の座長である木村執行理事の当初の提示は、全日本大会は今でも600人の定常的な参加数が期待できる。ロング種目として地方協会が引き受けるには、今では過大な負担になってしまったが、これをどうすれば継続可能なものにできるか、というものでありました。各県協会の持ち回り労力では継続が厳しくなってしまった全日本ロング、ならばプロ事業者が参画して、継続開催の道筋を開いて欲しいという期待も座長にはあったのかもしれませんが、プロとしての経営判断は、600人でロング1本は、できないことではないけれどちょっときつすぎます。どっかで無理をして、何とかしましょう...で対応する部分が必ず出てきます。勢い評判を落とす結果にもなりかねない。(多分世間ではプロ事業者に対して実際そういう評価の全日本もあったでしょう。)インカレより厳しい条件での継続開催。しかも、全日本をより良いものにしていこうという中央組織内のリーダー不在、どう見たって現状の全日本はビジネスとして魅力的なものではありません。

次に私自身のジレンマを書きます。全日本大会が立ちゆかなくなるということは、その名の通り日本を代表する大会がなくなるということ、日本を統括する中央組織が機能しなくなる、ということだと思っています。しかし、それを責任をもってリードする中央組織内の人材が見当たらない。今まで自分が意

見してきたことも、外から発言しても無駄。本当に改革しようと思うのなら、中から発言し行動する、そしてそのことに責任を持つ、方法はそれしかない、プロとしてそのことに取り組もうと思いました。

今の全日本・JOA の状態で今まで日本のオリエンテーリング界で自分が築いてきた財産（地図や涉外）は果たして自分が居なくなった時も残って続いていけるのか？ 自分の残された生の期間、全日本大会を日本を代表する組織の看板大会として、真に求心力のある大会に作り変えることに力を注ごうという思いになりました。全日本が 900~1000 人なら、そしてその大会が魅了的なものなら、大会後の財産が、真に地元の財産として活用できるものであるなら、全日本は誘致合戦になるかもしれない、そんな思いをもって提言作成に関わっていきました。つまり、これは後進のプロ事業者が安定して仕事が行え、また日本全体の中央組織が真に求心力のある魅力的な大会を継続して開催していくために、今まで言っても通じなかったことを、中に入って行動していこう、ということです。今までの決してかっこよく仕事をやってきたわけではない私が、泥かぶるなら甘んじてかぶろう、そのことによって後進に道が開けるのであれば、それでよし。そういう気持ちです。

インカレが築き上げてきた価値はこれからもずっと続くのか？

インカレは JOA の前身、JOLC が政府の執行機関・国民体力づくり運動の一環としてお金もヒモもついていた時期から独自の歩みを始め、自立した運営をしてきました。インカレは全日本大会に遅れること 4 年、1979 年 3 月より開始、日本のオリエンテーリングの発展に、主に競技（地図・コース・コーチング etc）の面で寄与してきました。いわゆるダブルスタンダードであったのですが、インカレがなければ日本のオリエンテーリングはここまで辿り着けていない（それでも世界の進歩より遅れを取っているがそれはこの論ではないので横におきます）。ダブルスタンダードで JOA からの組織的干渉を受けずに、インカレが独立独歩で歩んできたからこそ、人材の面でもお金の面でも、ここまでやれてこられたと言えます。オリエンテーリングをプレイするという点では共通でも、そこに集う人の価値観はその中でのみ形成される。インカレに向かうモチベーションの中で育った人達、これを仮にあまり言葉のイメージは良くないけれども、「インカレ至上主義」としましょう。勿論そんな孤立して発展してきたというわけではなく、関わった人それぞれが程度の差こそあれ、ダブルスタンダード的に各人各様でインカレにも JOA にも関わってきました。今の JOA の役員の中にもインカレを経験した世代の人間は多いです。私は、さしずめ「インカレ至上主義」の頂点に君臨？している存在なのでしょうが、時として今年の全日本は（色々な理由で）協力して、と言われ、インカレとは比較にならない条件で何かと手伝ってきました。全日本大会 42 回の歴史で、そういうのはゆうに 10 回を超えます。

しかし今は、全日本大会の開催自体が本当に覚束なくなっている。JOA の会員マターでの開催（議論の中では、「地方丸投げ」という言葉を使った）では、もう続けることはできないのです。全日本の開催ができないということは、その国を代表する一番の大会をそのスポーツの中央統括組織ができないということ。屋台骨をゆるがす緊急事態なのです。つまり存立の危機であると。JOA に対する不満、中で何が話し合われているのかよく見えないとか、意見をいっても通じないとか、まあ組織の中の壁や色々な事情があるだろうけど、皆さんも実は当事者意識がないのではないかと。インカレの自主独立の価値観形成過程を皆さん目にしてるので、第二 JOA を作ろう、なんて声も SNS とかでは聞こえてきますが、実際はオリエンテーリングの正統な中央組織がなくなったら、この国の全てのオリエンテーリング活動が頓挫する。オリエンテーリングはそれだけの社会性をもったスポーツなのです（生涯スポー

ツとか運営や地図準備に他のスポーツとは比較にならない位の労力が必要、ここの論点は展開するときと長いが、今日の主論点でないので、ここままで)

さて、そんな問題は今更私がここで言うことではなく、もう何年も前からあちこちで話には出ていました。もちろん JOA 内部の人の中でも。公認大会開催の低調さなどもその中の話ですね。国を代表する大会に若者の大半が出ない、出場する興味も沸かない、そういう状態はもう何年も前からの状態。皆の中の話に出ないわけがない、そんな中でも、会員である県協会は何とかかんとか努力して開催にこぎつけてきたのです。問題があると判っていながら、JOA の中の人で誰も率先してそれに手をつけようとする人はいなかった。競技委員会からのここ数年の数多い特例措置の公布（しかもそれ、微細に入りすぎ読みづらい）などをみても、その場をクリアする解決方法でしか執っていない。つまりわかっているが、自ら率先してそれに動くということではなく、問題を放置してきた。しかも誰も責任取っていない。勿論、JOA はいろんな人がいろんな立場で集合し、それぞれの担当分野もあるだろうから、自分がどこまで手をつけていいのだろうか躊躇するということはあるだろう。私も数多くのお助け現場を経験して、そのつど問題点などを折りにふれて JOA の中の人に指摘してきましたが、結局外部の声は外部の声、きちんと扱われることはなかったです。今回、私が、第2次WGへの応募、提言案に、全日本大会の中央直轄型の運営、プロ事業者が中に入っの参画などは、こうした背景から自ら動いたということがあります。結局は、中からでないと JOA は絶対に**変えられない**。そしてそれは責任を明確にして臨まなければならない（つまり失敗したら責任を取る、失脚するということである、そもそも私は JOA の役員という立場をいただいた訳でなく、いちプロデューサ、外部から中に入ってきたコンサルタントである。組織上の位置づけは今回 JOA 内に常設された全日本大会実行委員会にあり、つねに解任もあり得る立場である。詳しくは下に立候補届出書とヒアリング回答を載せているのでそれを見て下さい。

(WGでの議論内容、パブリックコメントの内容、理事会への答申内容などは JOA の web の〈お知らせ (アーカイブ) 〉にありますので、そちらを参照してください。但し、本日現在、本年2月7日に行われた理事会への WG の答申内容、そこで設立された常設の全日本大会実行委員会、そしてプロ事業者も参画できる（但しその業務自体は無償）プロデューサ公募に至る経過内容は掲載されておらず、いきなりプロデューサ公募の公布となっていますので、その辺の流れが判りにくくなっているかもしれません。それに 2/7 理事会議事録もまだ公開されていませんし…)

具体的な改革案について語ります。

次に全日本改革の具体的な方策について自分の案を述べます。任期は2年ですので、これか2回の全日本で再び、日本を代表する全年齢層が参集するビッグ大会の地位を取り戻す必要があります。また全日本大会の財政改革も急務です。地方丸投げ時代に、金銭的にも地方協会を疲弊させてしまった全日本を、再び誘致できれば地方協会間の誘致合戦が行われる位まで好転させることを目標とします。ですので、新規トレインとまでは行きませんが、数少ないわが国の良質トレインで私の渉外的アプローチが及ぶトレイン、しかもまだ拡大もしくは改良の余地を残して新鮮さやより洗練さをアピールすることができるトレインということで、トレインコントロール、つまり初段階で計画的に入山規制するというアナウンスメントをまず実行します（すぐに常設実行委員会を通して JOA 公示が行われるはず）。**全年齢層が集う大会**、ということに関しては、ここまでダブルスタンダードが離れてしまった現状では、ちょっと

荒療治が必要です。パブリックコメントの中にも、“全日本とインカレは統合すれば良い”的な意見がいくつかありましたが、結局はそこに行き着きます。しかし、ダブルスタンダードがここまで離れてしまった以上その改革は、インカレ側にとって現状の価値を全否定することになり、私も一瞬考えましたが、今はまだ無理です。そもそも私は言ってみれば「インカレ至上主義」の頂点にいる人物、そもそも「インカレ至上主義」を肯定しています。インカレがより高いものをこれまで目指してこなければ、日本のオリエンテーリング界はこのレベルにまでもさえなっていなかった、そう断言します。それで、私が主張したいのは、いちオリエンティアが、いち団体が成長していく、ステップアップしていく過程において同じ方向を向きましょう!ということです。そう考える時、学生の定例イベントを維持したまま全日本と混じられる唯一の機会は、“セレクション”、つまりインカレ予選会にあるということに結論づき、プロデューサー応募案に盛り込んでいます。(勿論、第2次WG内では、それを前提とした案に関しても、かなりの議論時間を割きました)その後、チョコチョコとは自分の案を、周辺には漏らしていましたから、セレ(予選会)でも、インカレと全日本がまじわることは細かく検討したら厳しいのではないかという思いも自分の中にもあり(自分でもここ数年の競技委員会公示の様に、色々場合分けして細則を考えてみました)、また、背景を知らない学生からはセレと全日本がコラボするなんて絶対反対であるとのコメントなども聞こえてきています。しかし、(全日本やJOAがつぶれても)インカレだけが今の価値観のままずっと維持して存続していける、それも幻想なのです。誤解のないように説明しておきます。学連は設立当初からの理念である学生自治、その学生自治とは私が大学在学期間の全てを捧げて守り抜いた大きな理念です。なので、決議する権利は今でも学生自身が有しています。学生の手で反対してつぶすことも勿論可能です。そうなれば、公募により外部から施政者となった私は失敗人事だったということで、責任を取らされます。解任か辞任かはともかく、オリエンテーリング界の殆どの立場を失することになるでしょう。オリエンテーリングは涉外とか裏支え部分で極めて社会性の高いスポーツですから、その先がどういうことになるかは、頭の良い大学生ならまず思い及ぶことでしょう。…とこのようにこの改革には学生界に脅しの効く人物であることも採用要件であることはWG議論の中で出しました。インカレと全日本、両方がお互いの価値観を崩すことなく、高みを目指す上で同じ方向を向き、時に混じわる。公募・ヒアリング回答を書いている時は、まだ私も細則論を作るところから抜け出せていませんでした。しかし、ここにきて少し光明を得たような案を考え及ぶに至りましたので、これを元に各方面で検討をしていって欲しいと思います。どちらも譲れる部分は少ない筈です。それに、もう一つあちこちから指摘されている、公認大会の見直し・活性化にも、大きく一役買える画期的な案です。JOA 公示で私の職務が明示されたように、まずは今回は全日本ロングだけが対象です。この改革がうまくいけば、いずれミドルもということにもなるかもしれませんが、それはさておきます。また、全日本のE権は、予選においてフォレスト種目というだけで、ミドルでもロングでも全日本E権につながりますが、これも当面は学生側からは譲って考えて下さい。

全日本大会とインカレ予選の融合……これだけが、まず参加者数を回復する即効性のある方法

<JOA を身近に感じられない分、皆にはあまり危機感がないだろうが、そこまでJOA・全日本の危機はきている。何人かが口にしているように、策を打つのは遅すぎた位。山川が中に入って今回行う改革案が失敗に終わったら、きっと大きすぎるほどのダメージが、全日本・JOA 側にも学連・インカレ側にも残るだろう>

→例年各地区のロングセレが行われている6月第3週で全日本大会を設定、トレインコントロールを直

ちに行いクローズトレインを公示する。

第 43 回全日本大会 2017 年 6 月 18 日(日)開催予定 栃木県矢板市

クローズトレイン「矢板日新」「矢板山田」

運営母体:栃木県協会、関東ブロック会議、セレ実行委員会

トレインは若干拡大(新規範囲でも競技を行う)、地図表現はさらに洗練度を増す

第 44 回全日本大会 2018 年 6 月 17 日(日)開催予定 岐阜県中津川市

クローズトレイン「椈の湖」 運営母体:岐阜県協会、東海ブロック、セレ実行委員会

トレインは、1991 年 3 月インカレ当時のエリアまで拡大、1 枚の地図で 12 キロのコースが組める範囲

→全日本は WG 答申内容にある通り、年に一度の全年齢層にわたるオリエンテーリングの祭典であると同時に年間最強王者を決める選手権大会、その出場権（E 権）を所持しているものは、もれなく全日本選手権の方に出させていただく。それと同時にセレクションクラスが設定されるという構成

→学連が JOA 非加盟の頃は、その部分だけ非公認大会とか、その後の公認大会に出場するには、どうのこうの、という細則が都度公示されてきましたけれど、今は学連も JOA の正会員、学生は全員 JOA 登録者である。年齢別クラスの規定が、JOA のと異なるが、そこをうまく解釈するとして、セレクション自体を公認 A 大会の一クラスであると位置づけ、昇格要件の再議論を競技委員会にもお願いしたい。

→20E であれ 21E であれ、資格を得たものは全日本選手権の方に出場せよということは、つまりセレクション免除ということである。つまり公認大会フォレスト種目で E 権を獲得することはイコール、公認大会も数あるセレクション予備レースということになる。（この部分を決するのは、学生自治団体である学連、まだまだ公認大会にそこまで期待するのは不安要素いっぱいだろうけど、改革は待った無しなので、ここは大きく譲って欲しい）これは、公認大会活性化、良い意味での緊張感を生み出す効果もあると見ている。学生の動員が大きく望めるのであれば、いままで躊躇していたが公認大会開催に踏み切る団体も多く出てくるのではないかと期待できる。参加が増えるということは、その分動く金も大きくなるから、若いプロ事業者が活躍できる場も多くなることを期待できる。質の均一化や全日本の E 権にミドル・ロングの区別が現状ないことなど課題はあるが、多くの関係者の英知を結集して、高みを目指す上で同じ方向を向く、という理念から解決策をさぐって欲しい。

→学連の規定的には、ロングセレ要項発表前の一定期間の全日本選手権クラス出場権獲得者を前年同種目入賞者と同じく、セレ免除者とする（ここまでは地区割等も関係ない、一旦沈み込んだ地区学連が出場数を再確保するのに、今の制度だと結構時間がかかってしまうのも少しはこれで解消される）、その上でセレを通じて、インカレロング選手権クラスの出場できる人数を割り振り（これは技術委員会の仕事）、各地区ごとにセレクションを開催する。

全日本大会を開催する地区においては、そのまま全日本大会のセレ専用クラスで、選考会を行って欲しいが、当該地区でなく遠方で全員参加が難しい地区学連は、2 段階選抜式（今でも北東と北信越は 2 段階選抜式）にして、全日本大会でもセレ通過一定枠を設けてセレ参加して欲しい。

→学連的は、それでもまだ問題が多分ある。現状の男子 60、女子 30 という枠数では多分収まり切ら

ない危惧が当然でてくる。この数字はここ数年慎重に議論し、インカレという晴れ舞台が、それこそ大舞台であるという設計思想で決めてきたものだけにである。しかし、これも学生側には、構造改革の軋みが収まるまでは、将来にわたる全日本・インカレの存続のために、譲って欲しい面である。インカレだけの世界で今までの価値観が将来もずっと継続していける、それは幻想に過ぎないことを理解して議論して欲しいです。まだ問題はあります。来年6月のロングセレでのことを語っていますので、もしこの案で行くと成れば、期限的に今決めないといけないことでもあります。前戻りはできないですから、正式決定は後付でとして、プレアナウンスとして扱うにしても、これから行われる公認大会に対して摘要（そしてGW位までに開催される公認大会に対してかな）ということになります。少なくとも、E権獲得者は、今後の議論によりセレ免除になる可能性があります、というアナウンスが今月中位に必要です。（今度の幹事会？）またすでに現時点で来年6月の全日本E権を得ている者はすでにセレ免除という、これは過去に遡るベクトルでの措置になりますが、それも譲歩していただくことになります。

→今のJOAの年齢層規定は本場北欧の規定（IOFの規定でもほぼ同義）をなぞったもので、E権獲得規定において、20Eと21Eではその実力に大きな差があり、現役入学ベースで3-4年生は大きく不利、というのはまず問題点として挙げられるであろう。本当に現役学生時代から強くなって、全日本のチャンピオンを目指そうという人は勿論、公認大会で21Eに挑戦しつづけなければよいだろう。もしそれで出場資格が得られなかったとしても、全日本大会と同時開催される、セレクラスを通過することは容易なことだと思われる。問題なのは、そこまでの実力はないけれどインカレは絶対選手権クラスを走りたい、と思う4年生のモチベーションが現時点での年齢規定では壁がある、ということである。ここは競技委員会に譲ってもらって、4年生も20Eの出場資格を得られるクラス（もしくはクラス名称を変える）を公認大会で設置するよう、強く求めたい。もともと年齢別クラスを日本の学区制にきちんと合わせよう、という議論は前からJOA内のあちこちで起きています。この機会に手をつけて欲しいと全日本大会プロデューサーは強く望んでいます。

→この項目の最後に、全日本は絶対必要、ずっと出続ける、という層と学生オリエンティアの根本的融合がなければ、わが国のオリエンテーリングは、今後高齢化の波がさらに加速すること、絶対に存続できません。セレを融合するというのが、そのためのまず変容できる即効的は一方法、その中で本当にどうすればよいのかを考えていきたいと思います。主役は私ではありません。実際にそこにいる全年齢層のplayer達です。

全日本大会は変わる！

→地方持ち回りから、中央直轄へ わが国のオリエンテーリング界を代表する大会

競技オリエンテーリングの位置づけ・定義 ”あらゆるナビゲーションスポーツの核心の部分は競技オリエンテーリングの中にある。言い換えれば、ナビゲーションスポーツの王道” 質も規模もナビゲーションスポーツの王道にふさわしく、周辺種目からも全日本の日は王道種目に挑戦する、名実ともにそのような内容になるような大会にしたい。

→プロデューサーというのは、そのグランドデザインを描く人（しかも公示にある通りその部分無償、将来のオリエンテーリング界のために、仕事して関わる後進のために、その部分での新たなマーケット

開拓ができなければ、インカレやクラブ7人リレーの成功だけでは、自分のレゾンデートルがない、そういう考えで応募しました)、実際に各プロジェクトで動くのは、この国でのその分野でのリーダー達を起用することを考えています。それこそが中央組織直轄で全日本大会を行うことの真意です。なので、私に誘われたら、色々相談に乗って下さい。あるいは私に積極的に声をかけてきて下さい。地図調査ももっぱら若いマッパーに活躍していただくことを考えています。自分の儲けにつながる部分は少なく、責任の重い仕事ばかりです。JOA・全日本大会の危機に乗じて、仕事持って行ったということでは決してありません。その上で、私にとっては失敗するとクビになるという、自分のオリエンテーリング人生の中で最後に賭ける大きなリスクかもしれません。

→話を戻して、中央直轄大会といっても中央の人員は限られます。大規模大会の各パートの要員は、該当地区（あるいは該当ブロック）の協力を得ないと成り立ちません。ヒアリング回答書にある通り、全日本大会の運営を、「専門特化部門」と「ルーチン運営部門」に分け、「ルーチン運営部門」では、例えば次回では、元々関東ブロックで何とかしようと言っているながら、中心開催地としてどこも手を挙げなかった実情がありますから、人員確保に協力していただきます。それはもう4/24のブロック会議に私も出席・説明をして了解をいただいています。「専門特化部門」ですが、これには以下の部門が当てはまると考えています。地図調査・作図・印刷調製、コース設定、計時速報システム、会場演出（MC含む）などです。そしてこれらの部門の人材はできれば全部有償で回したいです。まだ理想の状態には遠いし、予算の限られた中、自立前提で全日本大会の財政改革もミッションの中に入っていますので、最初は理念通りにはいかないかもしれません。ある程度は協力という言葉でごまかしてしまうかもしれませんが、将来にわたって人材を確保していくためには、きちんとした対価で報いなければならないことをずっと認識していきたいと考えています。これらのことで活躍して欲しい人材の方には私から、お声をかけていきます。また、自ら志願して私に声をかけていただくのはもっと嬉しいです。よろしく願います。

→改革初年度にあたる今回は、ずっとこの件を保留にして問題提起を起こさせてくれた、関東ブロック会議の顔合わせを兼ねて、少しでも全日本選手権者を戦える選手を多く輩出するため、プレ大会を矢板で3月12日に開催します（公認カテゴリA、前日の11日は公認S）。

JOA 内常設組織、全日本大会実行委員会とは？

これまで書いてきたことで、全日本プロデューサーという役職が、JOAの中の人のものであって中の人でない、全権掌握のものであって、全然全権掌握でない。全日本実行委員会というのは、民間人であるプロ事業者を組織の中に入れて活動していく為の、中央組織の中でのガバナンス役とでも説明すればよいでしょう。つまり、JOA側からはいつでもクビ取れる、雇われコンサルタントだということが理解していただけただけでしょうか？（そのうち座長から、公式な説明があると思います）

そして今の実情は、明日の全日本大会が開催できないという”緊急事態”。そのことはこれを読んでいる皆さん全員で自覚していただきたい現実のJOAの姿です。今後、JOA内部の各機関でも担当部分を細部にわたって検討していただかないといけないし、学連にも、学生による学生の為の自治組織とし

て決定権を経験浅い学生達が自ら握っているわけですが、多分この改革には、実際少なくない負荷があちこちにかかってくると思います。しかしその負荷は、明日のオリエンテーリング界のために乗り越えなければいけない壁、そういう考えで議論を進めていって下さい。成長に対して同じ方向を向くこと、それが統一理念です。決して「インカレ至上主義」を捨てなさいといっているのではありません。その先の視線まで平行した考察で議論して下さいということです。インカレだけ今の栄華？隆盛？をずっと続けていける訳では決してないことを考えに入れて下さい。

全日本とセレの融合が、最終ソリューションではありません。

私のミッションは、2年間の時限的ソリューション、学生界が全日本に融合し、真に全日本大会という地位を名実共に取り戻せばそれで完了です。その議論の中心は実は皆さんです。私はJOAの中に外部から入り込んで風通しを良くしたという役割にすぎません。”同じ方向を向く”という所から、現状の価値を肯定したまま、譲歩できる部分はという観点から、それぞれ議論を再構築して下さい。

今のJOAの中に入ってこの危機を救えるのも多分私しか居ないこともまた事実でしょうから、思うところある人は、今の立場が私にあるうちに何か言っておくというのは、多分とても効果的です。直接語りかけ、メール、LINE、Twitter 何でもOK、アカウントはどっかいけばすぐ判ります。(LINEとTwitterアカウント名は同じです)是非声をかけて下さい。

任期終了後、どうなるのかは私もまだわかりません。少なくともその先の全日本大会もインカレもずっと続けていける体制が求められるものになると思います。うまくいっていなければ、私はクビですし、留任というよりは風通しだけよくして、なんとかやり切ったら私は退任、あとは他種目の改革や選手育成の改革なども含めて、若い人の活躍の場となれば尚良し、というスタンスで行きたいと考えております。

これをもって、私の全日本プロデューサ就任演説終わります。長い文章にお付き合いいただきありがとうございました。実はこれ書き切るまでに、尋常でない位の時間を使いました。書いては消し、書いては消しです。(まだこの文書いている今でさえ途中欠落していて書き直すか、ぱったり出さなくていいで削除するかもしれません。)全日本大会を、今改革しないとこの国のオリエンテーリングの将来はない、ということを判っていただき、各人それぞれが今やるべきことを認識し、そして何か一步を踏み出してもらえれば幸いです。皆さんからの意見を聞くに及んで、考えを一部訂正したり加筆したりすることがあるかと思いますが、補遺としてそれも公開で進めていきたいと思いますので、よろしく願い致します。

<参考資料>プロデューサ応募文<2016. 4. 15 付>とその後求められたヒアリング回答<何日付>

~~~~~

## 立候補届出書

JOA 公示 2016 年 3 月 28 日 09:06 JOA 公示について、全日本オリエンテーリング大会を継続開催するために、全日本大会の開催を複数年のビジョンをもって推進するプロデューサに応募いたします

2016年4月15日

- 会社名(個人の場合は不要) (有)ヤマカワオーエンタープライズ
- 氏名 山川克則(代表取締役)
- 連絡先のメールアドレス rmo-s.yamakawa@nifty.com
- 連絡先の電話番号 090-8041-4673/046-486-5162
- 連絡先の郵便番号と住所 〒329-2441 栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68  
自宅住所: 〒276-0027 千葉県八千代市村上団地 1-32-409  
もうひとつの拠点住所 〒503-0994 岐阜県大垣市綾野町 3504-116 (電話:0584-92-0366)
- 募集にあたってのコメント 昨年度は第2次ワーキンググループとして全日本(ロング)の継続開催のために、多くの時間とエネルギーを割き、激しい議論を主に主導してきました。この役は公益法人たるゆえに公募で行われているが、行った答申のかかなりの部分が私の提言によるものであります。提言にあるようにこのままでは、全日本(ロング)の開催引き受け手団体が無いどころか、日本のオリエンテーリング自体の存続を危うくする事態だと考えて、将来この世界がプロを交えた健全な循環世界となるために、尽力を申し出るものです。
- 複数年のビジョンを示す資料(A4用紙1枚程度)

この改革を進めるにあたって絶対に必要だと私が考えていることを、具体案を交えて述べます。

1. ボランティア活力だけで、一番負担の多い全日本(ロング)をこれ以上遂行していくことが限界なことは、多くの人が指摘している通り。先進的な技術やノウハウを持つプロを活用して、お金も人材も継続可能なように循環していけるフレームを作ることが必要である。昨年のWGでの議論において、プロはパワー不足を補う役で良いのではないかという議論があったが、それには激しく反対し論破した。本改革において、プロは決して便利屋ではない。
2. 中央組織できちんと競技の根幹レベルをコントロールすること。WG内で、全日本(ロング)を、JOA直轄大会として常設組織である実行委員会を設立すべきだと主張した。今までの全日本は、公認大会の延長と何ら変わらない。ナビゲーションスポーツの王道であるオリエンテーリングとして、この国の規準を作成しleadしている者が直接関与することによって、責任ある本当に競技レベルの高いしっかりとコントロールされた大会ができると考えている。そのために、必要な努力を惜しまず、適材適所で重要各所に最適の人材を配置する。また、そのスタッフは有償で確保することも視野にいれる。本職の役割は、その人材登用と全体アレンジであると考えており、

すべてを私が引き受けるという訳ではけっして無い。条件にプロデューサーは無償というのが記されていたが、将来を担うリソースが人もお金もきちんと循環していくフレームを作るべく尽力していくことが、私(プロである山川)の人生終盤の役割と考えている。なので、採算面からの応募ではないし、全部自分で引き追うけるというわけではない。追いつかない部分を手伝うことはあるかもしれないが。

3. コントロールは、競技レベルの維持、真に全日本レベルの大会を維持するために、テレインコントロールも必要である。募集要項はまず2年間の就任ということなので、当面2年分のテレインコントロール案を示す。正式に就任が認められたら、全日本実行委員会名でテレインコントロールに関しても、公示を行っていただきたい。

2016年度全日本 2017年6月開催案 栃木県矢板市「矢板日新」(日本学生オリエンテーリング連盟)

※矢板地区では、最難度のテレインという評価が定着している。一部、細かすぎる表現に走りすぎたキラエのエリアがあり、まだまだ洗練度を上げる余地がある。未調査エリアが残っており、さらに拡張の余地がある。地元の理解と協力は非常に得やすい環境にある。役員宿泊地として、無料の施設がある。WGで答申したように、それでも最長クラスは2マップにならざるを得ないかもしれない。しかし、それを補うに足る難&good テレインである。

2017年度全日本 2018年6月開催案 岐阜県中津川市「椈の湖」(日本学連・岐阜県協会)

※圧倒的にゆるい斜面と通行可能度のよさ、ヨーロッパのコンチネンタルテレインに我が国テレインの中でもっとも近いといわれているテレイン。地元もきちんと渉外すれば協力してもらえる。初版の範囲まで拡大すればワンマップで14キロ位のコースが組める。

どちらのテレインも我が国最高水準のテレインであり、当面の改革路線として、費用的なリスクを少なく抑えたまま、最高水準の大会が可能な場所で2年まづやってみて、その後のストーリーを見据えようというものです。

4. (これが何より一番重要/WGでも一番の力点をおいて議論しました)現状の全日本ロングの最も残念な部分は、全日本という名に恥じ、全国から全員が参加しないことが一番の問題である、と私は考えている。折角苦労して準備しても、最高の戦いがそこでは行われぬ。それはそれはむなしきものである。ここ数年はどんなに引き受け県協会が頑張っても、参加者600人で頭打ちである。最大人口を誇る学生界からは、半数以上が全日本に参加しない。また卒業して、オリエンテーリングを続けている人(MW21の層)もほぼ半数は参加しない。それでパブリックコメントでは、全日本継続してほしいのほしいと多くの人が叫んでいたが、それでは何も解決しない。またベテラン層にも、学生の大会は別次元の大会として(自分には楽しくないのでしょう)インカレなどに見向きもしない層も少なからずいる。しかし、これでは先はない。いくら学生オリエンテーリング界が今は栄えていても、日本の中央オリエンテーリング組織とそれを代表する大会が今の現状では、その繁栄はいずれ近いうちに終焉がくる。学生OL界だけが繁栄する未来ストーリーはないのだ。これを改革するためには、かなり大きなエネルギー、つまりとっかかりでは強引にでもオリエンティア全員を誘導させる

ようなアクションが必要である。そのための方策としてWG内で、どんな改革案を想定しているのかというのを聞かれて散々悩んでこれしかないと思って提案したのが、学生のインカレセクションと全日本(ロング)を融合することであった。今の500-600基調で推移している全日本参加数を、900-1000基調に継続的に持っていくことが、まず必要という主張である。今の全日本に参加しない層は、参加することに価値を見出していないからである。開催時期の問題もある。開催までには、多くの障害が横渡るだろうが、その難局はクリアしてでも、まず人とお金が循環できる数の参加者数に確実にもっていく、そして提供する競技レベルは、真に中央がコントロールしている、あらゆるナビゲーションスポーツから尊厳をもって評価される王道の大会を目指す。(細かい運用案も考えてありますが、それは就任後、常設実行委員会内の議論で深めたい) 900-1000基調にもっていければ、WGの答申にもあったように、全日本誘致に動く団体もある。少なくとも私はそういう団体を複数把握している。

まだまだ言い足りない部分はありますが、とりあえず以上です。よろしくお願い致します。

---

## 全日本プロデューサー立候補届ヒアリング回答

2016年4月29日提出  
(有)ヤマカワオーエンタープライズ 山川克則

### 質問 1: 2年間の財務計画について

スタッフを有償で確保することを視野にいれるようですが、全日本大会開催に伴う売上(見込み)で有償スタッフを雇い、利益を得られるストーリーがあるのでしょうか。有償スタッフの確保により、利益が減ることになると思いますが、2年間継続できることを確約してもらいたいです。

### 質問 2: 山川氏がやるということについて

ちゃんとスケジュールどおりに必要事項記載の要項を出して、十分な余裕を持って地図印刷などを行えるのか? これまでの実績から見て不安があります。  
プロデューサーを引き受ける期間の他の仕事の予定は? 職務専念義務、と言ったら大きさですが、全日本大会に一定のリソースを確保して仕事をして欲しいです。

### 質問 1、2 への回答:

全日本大会の運営に関しては、必要な作業を専門特化部門とルーチン運営部門に分け、専門特化部門は有償とし、先鋭的に各部門に取り組んでおられる方々に協力していただき、名実ともに全日本大会がナビゲーションスポーツの最高峰の大会となるよう努力します。山川が行うのはそのプロデュース業で、当社だけで専門特化作業を行うわけではありません。

補助金なしでもやれる独立会計体系が求められています。赤字になれば、当社持ち出しにして決算します。当社としては、そのリスクを冒してでも、中央組織の責任として全日本大会のプロデュース業務を行うことに価値があると判断しています。言い換えますと、後進の各部門の専門家が育ち、またその後長く活動していける素地と作ること、それには全日本大会の改革が最も必要なことだと考えており、そのプロデュース業務に投資することが、プロ先達者である私の責任であるという覚悟です。

### 質問 3: テレインについて

テレイン案として「矢板日新」と「椈の湖」が示されています。両テレインとも最近の大規模な大会としては、インカレミドル&リレーや全日本リレーで使用されています。

「競技規則および関連規則類のガイドライン」の「付表 2 オリエンテーリング競技形式の概念と基準」において、ロング競技のテレインは「良いルート選択が可能で体力的にタフなテレイン」が求められています。両テレインがガイ

ドラインに適合していることを示して欲しいです。

### 質問 3 への回答:

矢板日新:その後隣接する「矢板山田」も「矢板日新」と同じタイミングで使用実績に間が空いたことから同時クローズが適と判断(赤字分後日追記)。

学連の web に定量的な資料が公開されていますが、このエリアで最もナビゲーション能力を問うトレインであることを示すものです。まだ若干拡大することができその部分を活用すれば新鮮なコース部分も提供可能です。

それでも少し狭いので 2 マップを使用してロングコースを提供します。

この方法は「全日本大会を考えるワーキンググループ 2015」の答申にある通りの進め方です。

椈の湖

この地図は拡大の可能性を十分に残しており、初版の地図の範囲に戻せば 1 マップ、1 万5千で 12 キロのコースが提供可能となります。

両トレインとも、求められている全日本大会の財務改革を勘案しながら、今直ちにトレインコントロールを最小のリスクで執行でき、なおかつ上記のように求められるロングの要件を満たします。

### 質問 4: インカレセレクションとの融合について

もう少し具体的な説明がほしいです。アイデア自体は結構いいと思うのですが、学連との調整が必要だと思うが、それが次の全日本に間に合うのか? 遠方の学生の負担が増えることから、すぐに OK がもらえるか?

### 質問 4 への回答:

具体的には就任後の折衝次第です。細かな台本を色々用意していますが、実は学生側からも具体的な次世代型アクションが出てこないか期待している部分なので、自分の意見を強く推すものではありません。要は、“全世代のオリエンティアが一同に集まる場”が今の情勢に合わせて再構築できれば良いのです。ということで、学生には強くお願いするつもりで、質問への回答としては以下の声明やスタンスを今は述べるに留めます。

この改革がうまくいかなければ山川は失脚する。失脚すれば、学生オリエンテーリング界も山川が 40 年間やってきたことすべてを替わり得る人材が現れない限り、視界はたちまち不良となる。色々障害があるが、将来も持続していくため協力して欲しい、これくらいのことは言っていきます。

学生の側でも色々規定的に譲歩していただく必要もできます。今、学生に対して私が言論をもって諭していることは、「今、全日本がつぶれかけている。全日本無くして学生の世界インカレだけがこのまま繁栄していくことは無いよ。このままではいずれ近いうちに終わりが来る。オリエンテーリングというスポーツの特性上、全年齢層が勿論それは学生もほぼ参加するようなフレームを再構築することに、学生界も議論参加していかないと将来はないよ」

以上

平成 28 年 9 月 7 日

## 全日本オリエンテーリング大会プロデューサー就任について（追記 1）

（有）ヤマカワオーエンタープライズ

山川克則

一昨日やっと公開した本案は、今週土曜日（9月10日）に日本学連の幹事会（私は7人リレーの準備で出席できない、木村 JOA 業務執行理事&学連理事（本件 WG 座長、常設実行委員会委員長）が出ることになりました）の資料として提示しないことには組織として話にならないというところから、下手な文章ながらもそのまま出したものでありました。たった1日でも聞こえてくる内容を精査したところ、現行の JOA の 20E 規則では、ステップアップの融合どころではなく今の学生の現状にはそぐわないものであって、これでは幹事会で話し合うたたき台にもならないと私なりに判断するに至りました。一旦 20E に関する提案はいったん全面撤回します。但し、**JOA のステップアップの規則と、学連の同規則がお互いに絡み合い、同じ方向を向いて進んでいく**、というのは、すごく良い案で、基本構想としては多くの賛同が得られるものと思っています。全日本大会の改革には、その前提となる**公認大会の改革**も必須です。公認大会が、学連の予選となるようしっかりとする仕組みづくりができれば（そのためには 20E 周辺の大幅な見直しが必要でしょう）、そしてまたインカレで得た成績が公認併催とかそうでないとかに関わらず（そもそも学連加盟員は今では全員 JOA 選手登録者なのですから）、全日本・公認大会の選抜クラスに出場できる仕組みができれば、そういった相互に関わる仕組みができれば、お互いの大会の活性化には大きく寄与することでしょう。その仕組みづくりは、**JOA 競技委員会と学生の代表との膝付き合わせた協議会**を開催するのがよいと思いますので、まずそれを提言しておきます。

それで、幹事会で話し合う為の**現実的なたたき台案**を提示します。全日本大会の継続の為には1回でも欠かすことのできない今は緊急事態、即効性のある策としては、セレとの融合がただ一つの手、という立ち位置は変わりません。（それより良い案のある方は出てきてご披露下さい）但しこれも前資料を撤回して、今回限りの経過措置とします。1年無い中での実行は広報不足を責められるかもしれませんが、ここは本当に“お願い”です。緊急事態なのです。（本当にお願ひするのは案を出した私ではなく、JOA 中の人だと思います。例によってヤマカワが何とかするんでしょ、と他人事ですますのは結局ここ数年ずっと言われている JOA 周りの問題を何も解決しません。そしてそれは早晩学生の環境にも多大な悪影響になることが私には見えているから、ここで中に入って解決の糸口を模索しているのです。）主に学生用の資料ですので、すみませんがこの論展開だけはかなり細かいところまで書いています。

1. 21E に関しては前提案通り、JOA 現行規定はミドル・ロング一緒というのはありますが、3月末までの公認大会で全日本 21E 出場権を獲得したら、その選手は全日本大会 21E に出場いただき、セレ免除

→現状インカレ選手権対象者ですでに全日本 21E 権取得者はゼロ<現在より遡っての基準適用はない>

→現状全日本予選である公認大会 21E 出場資格保有の対象者 7or8or9 名(4年生 3年生か調べ切れていない)が公認 21E で資格獲得、それと公認 21A で 21E 出場資格獲得してその2ヵ月後以降の公認 21E で、全日本 21E 出場資格獲得したものがセレ免除者となる。現状対象者として名が挙がっている人は学生の間では十分に速いことで名が知れている選手、しかしその対象選手でも、公認 21E クラスで全日本 21E 出場権を獲得するにはかな

りのハードルの高さであると思われ、十分にセレ免除に値する。(この7月の公認札幌大会での学生獲得者は男女ともゼロで、東大竹内君の成績が最善だが、それでもまだかなりのハードル)

尚、公認21Eの昇格基準だが、公認BカテゴリでM10名W5名(公認Aだと倍)昇格という規則ですが、しかし実際には補則の“出場人数の上位半分まで”が優先する場合の方が多そうです。(札幌大会は男女ともこれが適用、今後開催される公認大会でも何も改革しないのならその危惧あり)・・・つまりJOAの思う所まで参加者が21Eでも伸びていない。

2. 20Eに関しては、20Eとセレを同じコースで行うことを提案 2コースになるか3コースになるかまだ読めないけど(これ実は公認セレ免除を言い出す前までのずっとプロデューサ就任前後から考えていた案です)

1コース：<全日本20E><関東セレ1>

2コース：<関東セレ2><東海><関西><中四国>

3コース：<北東><北信越>

21E資格者はセレ免除

20E資格者で関東の者は<関東セレ1>と混ぜて評価

20E資格者で関東以外の者は、この3コースを同等のものとして評価してセレ選出

今回の開催地区の関東以外は2レース制で、一定枠をここで選出、一定枠の割合は居住地と開催地との距離を勘案

(開催地地区学連以外はできるだけそれなりの一定数の枠を遠くても設定して欲しい、そこは地区学連判断)(元々北東と北信越は2レース制)(あともう1レースは合宿併設とか練習会併設とか、OBに過度の負担がかからない形式を想定、大掛かりな大会並の負担でないように、の意味)

コースは出来る限り同等になるように作成、全日本プランナーとのセレプランナーとの共同参画も考慮、

また<関東1のみ><関東2>でも相対評価

グレーゾーンは関東以外の地区の成績もみて、極力拾い上げる方向、定員増員で今回のみ評価、その評価は技術委員会で行う。(予測的にはこれで多分最大5名位救済か? 前年実績枠入れて最大でMUEで70名出場見当、1年限定経過措置)

<この面倒さがまずいかなと思って、公認大会セレ免除策(公認大会も併せて改革策)に切り替えたのですが、20E規定の詳細をみて、こちらの賛同を得る方が余程難しいと思い撤退、修正案提言という次第です。20Eに関しては厳しい言葉で表現すると現行のJOA規定は殆ど表現先行、実質半分以下の看板倒れ。かなりの読解力が必要な補則の連続で選手を拾おうとしているが、実際の20E参加者は、それに応えていない状況>

3. 参加費は、学生に関しては前年並み、一般に関しては真に継続可能なレベルまで大きく見直し、ただし今回は5千円までと考えています。但し、JOAの問題はこれ以外にもあって、2/7公布の組織支援金の規定があります。中央の直轄大会なので“組織支援”という言葉はそぐわないのですが、学生も500円位の上乗せ(大会運営会計にではなくて、JOA本会計に行くお金)はご了解いただくことになると思います。今までのWG内の話し合いで、参加費設定はプロデューサマターということは確認されています。実行委員会委員承認が必要だと思

ますが。

さて本件での私の任期は2年です。1年目は緊急事態を何とかする、ということで、どうせヤマカワさんなんでしょ、ということも含みがあったのかどうか私は知り得ませんが、便利屋で終わるのならとりあえず目の前の全日本が救われただけで、ちっとも改革にならないことはご理解いただきたいと思います。

そもそも私は泥かぶり覚悟で、そしてうまくいかなかったらクビ・失脚覚悟で、JOAの中に志願して入って行きました。でないと真の改革はできないという長年の使われ方からの実感です。しかも本件は、ロング種目限定。時期も現行の規定の範囲内（現行規定は年度超えは5月迄です、6月は前例があるのでギリギリ認められるという解釈）、という縛りの中での活動になっています。発言範囲も、常設実行委員会によるガバナンスを受ける立場です。しかも、文章表現は下手ですので、そこは周りの支えが頼りという面も大いにあります。

（ここからは削除要請が来るかもしれない前提で一応書いておきます）

そもそもリソース限られているのに、大会多すぎなんですよ。しかもそれが散発的に行われている現状。重要大会は、きちんとパッケージして、トレインコントロールきちんとやって、財務計画もきちんと立てて、そんなん地方県協会のボランティア活力だけで出来る訳ない（もともと現況では尻込みか？）のに、足りない分を財務ビジョンなしにプロ事業者を便利屋としか扱わない。本当に魅力的な大会は上記のような要件をプロ含めた協業で、そして競技の根幹となる部分は中央の直轄で責任をもってこそ、達成できるものと思っています。全日本ロングも本来の魅力的な姿までいくには、もっと良い時期にもっと良いトレインで、遠征に負担がかからないように、他種目とのコンバインドで行うのが理想なのは誰もが思うことでしょう。しかしそれは、今回私に託された内容ではありません。せめて任期2回目終了後、次への提言という形で残すのがせいぜいでしょう。

この改革は私一人ではできません。（今まで何回かの全日本のようにとりあえず何とかするという事は、多分できるでしょう。それは全日本が今年もあってよかったね、でも何か不満、というレベルでしょうが）私のここでの役割は、JOAの中に入って風通しをよくすること、そしてそこに多くの人々の知恵を集めて本当にみんながオリエンテーリング楽しい！面白い！と思えるような改革のきっかけ人になることだと自分なりに思っています。

ということで上記案は1年限定ということに、シフトチェンジさせていただきました。2年目の案はこうなります。

0. そもそも1年目案が賛同得ず否決された場合、採用要件にある通りクビになります。そのあとは知りません。残った人で何とかすることになります。
- a. 山川が言うから、結局付き合わされるのか程度の改革なら・・・原案通りです。この地は私が住民レベルまで、電話一本で話ができる場所です。日本最高レベルのトレインの一つには変わらないですし、トレインの面積、現行の面積をはぼ2倍に拡大という案です。十分に新鮮な新生全日本大会21Eが実現できると思います。
- b. いろんな人が賛同し改革の輪の中に加わる、公認大会併せてのテコ入れ改革案が本格的に稼働します。学連とJOAが相互に資格行き来できるような、制度大幅改正にむけて好発進する。（2年目の資格基準は、その議論の中で来年3月までに結論が得られればできるはず）そういう風に、全部が良い方向に動き出すのであれば、30年間プロ事業者をやってきた私が今出せる最高のカード（切り札）を出しましょう。まだその前提となる渉外を

やっていないので、責任もつての発言までではないのですが、そしてプロ事業者の負荷も遥かに大きくなり、私には投資的リスク、西村にはスケジュール調整が利くかという問題もありますが、(九州とかはおいて) オリエンティアが普通にアクセス可能なトレインの中でおそらく最高峰、わが国最高難度と云われているあの憧れのトレインを(1991 年以來)全日本大会のトレインとして出す用意も考えたいと思います。それも地元協会から JOA への提案という形で。私の郷里の県であるからこそ出来る策なのですが、それは WG からの答申文書にもある通り、ベストな将来像でもあるのです。地元県協会が本当に良いトレイン魅力的なトレインを見つけてきて、中央組織のコーディネータに相談する。それが誘致合戦になるほど全日本は魅力的な大会になる。それにはコンバインドも必須だろうから、人員計画も財務計画もコーディネータやプロ事業者との協業になる。そんな先駆けとしても、あの憧れのトレインは十分にインパクトのある最高級のトレインです。そしてそのトレインは多分すぐトレインコントロールが掛かり入山禁止、次の重要な試合に備えることになります。あとあと合宿で行けるだろうから今回のエントリーは見送り、という行事過多で学生が言いそうなことも通じない策を打ちます。垂涎のトレイン、走りたければ来なさいと。(そもそもトレインコントロールの考えは中央がそれ位責任をもって、トレインの質から管理すべき)

最後に、全日本大会が崩壊しかけている中、「インカレだけが今の果実をずっと食べていけることは無い」ということを、もう一度学生諸君に説明しておきます。インカレ中心の世界しか見えていない君達には判りにくいことでしょうか、果実には枝があります。根があります。根がなければ果実は成りません。そしてその根は学生発祥の根、それ以外の根とは分かれていません。トレイン・地図・渉外・人・組織、長年かけて培ってきた、時に失敗しその都度色々学んできた、そういう財産こそが根です。ところが全日本・JOA の根や枝は、今折れかけ始めている。そんな中で、インカレの果実だけは来年も再来年も収穫できる、そんなことは無いということです。自分の会社のことをいうのも何ですが、オリエンテリング専用のハウスまで作って、やっとな経営的にもリスク回避というところまでこぎつけたわが社、学生に心地いいことだけ言って経営していても、自分の残り人生位は十分やっとないけるだろう、という状態にまでは今なっています。そんな安住の地から、こんなリスク承知で(しかも無償)、批判の方が多いようなことをなぜ言うのか? そこには自分の家族の子孫を残す遺伝子からの行動と同様、プロ事業者の後世存続願望の遺伝子が働いているのだと思います。レゾンデートルからの行動なのです。

終わり、お読みいただきありがとうございました。

意見は、できれば直接お寄せ下さい。

## 全日本大会（ロング）プロデューサ演説 その3

2016年9月9日

(有) ヤマカワオーエンタープライズ

山川 克則

9月5日の就任演説から始まる一連の私の演説文書ですが、公式Facebook、公式Twitter。オリエンティアメーリングリストなどに逐一情報は流していますが、私に直接ものを言うてくる人はまだわずかです。しかし、匿名で書き込める場所ではかなりの波紋、特に利害関係で影響の大きい学生オリエンテリングの世界（近いOB含めて）では、相当の波紋があったようです。それも殆どが批判意見。寝耳に水の人が多かったでしょう。さて、明日が学連の幹事会です。千名の学生（これ全員JOAの選手登録者でもあります）の利益代表である10数名の幹事の皆さんは、明日話し合うことの内容の責任の重さに身震いしていることと思います。それで、私の真意が伝わっているかどうかを見るに、もう1本演説をした方が明日の議論はより有意義になるかと思ひ、本日も短め？ではありますが、少しお話しさせていただきたいと思ひます。山川の文章は判りづらいと有名らしいので、今日は演説調で語りかけるように、でいきたいと。学連の広報に載せる文書は別に作成していますが、このようにYMOEのwebに載せるのは、学生だけでなく、オリエンティア全員に見ていただきたい内容でもあるからです。

さて私は、“インカレ至上主義”という言葉を使って、学生及び学生周りの若いOBの大半が全日本大会に参加しないことを、ワーキンググループが広報であげた問題点4つより、より深い問題があるという論理展開をしました。そのことで学生は批判されたのでしょうか？ 違います。全日本大会がなくなれば、インカレもいずれ開催できなくなる、という今突きつけられている問題だけは理解して欲しいところですが、まだ生きている時間が短い分の視界でしかない若い人達には、でもってインカレ自体は一時の底の状態を立て直して、今順調にそして盛大に継続できている現況においては、見えづらい現実ではあるかと思ひます。でも、全日本の問題を認識している人間、これは私だけでなく、実はJOAの中にもいっぱいいるんです。もう何年も昔から。問題を認識していながら、発信してこなかっただけ。発信したら、今回この数日私がたちまちかぶった批判だけみても、その責任の方が大きいだろうことは明らかですからね。はい、今日の私の演説はほぼJOA批判の方に向いていきます。全日本改革は私しかできないという含みでプロデューサといういつでも首切れる役職を作って中に一時的に入れられた立場ですから、前向きな提言をするという前提で、がんがんJOA批判していきます。もう一度いいます。学生は何も悪いことはありません。怒られたわけではありません。そう思ったとしたら、私の書き方が下手なだけ。申し訳ありません、と、ここでも一旦お詫び申し上げます。そしてプロデューサ就任から4ヶ月も経過しての就任演説、その遅れも大変申し訳ありません。それだけ内情は、オリエ

ンターリング界でのあちこちでの対応で日常はいっぱいいっぱいだということです。改めてお詫びを申し上げます。この演説すらも、西村という優秀かつ果敢な後輩が現れてくれなければそもそも書くことすら不可能です。

ということで、本当に悪いのは何なのでしょう？ それは、大した人数でないオリエンターリング界、競技も運営もする、人の土地・自然の山野、最近では公園・大学キャンパス・市街地までフィールドにするので渉外負担も他のスポーツの非ではない非常にユニークで負担の多い中、全日本とインカレでダブルスタンダードが存在している、そのことに尽きるのではないのでしょうか？ 学生を責めたのではない、ダブルスタンダードが何の危機感を共有するでもなく存在していること、このことが全日本問題の最大原因です。もはや緊急の課題である大問題であると、もう一度ここで声を大きくしていっておきたいと思います。ダブルスタンダードがある限り、学生はインカレ側のスタンダードで動きます。どんな手を尽くしても全日本大会の改革は成し遂げられません。書き込み及び私への投書（投書自体大歓迎です。匿名の落書きよりよほど健全な議論ができます）にも複数のコメントをいただいておりますが、“魅力的なトレイン・コース・イベント性”、それだけで全日本が再興できるとは、今の私には思えません。それは黎明期にオリエンターリングの面白さに若くしてのめりこんだことのある人（今の 50A 前後がその隆盛ぶりの影を今も残しています）の憧憬の映像でしかないと断言します。私の若い頃もその中の一人でしょう。なぜ私は断言できるのか、それは私が“プロ”、オリエンターリング事業者になってしまったからです。今のオリエンターリング界、皆が若い西村を応援しているように、プロ事業者は継続発展の為には絶対不可欠な戦力です。聞こえてくる皆さんの議論の中で一番抜けている視点が、プロ事業者からの視点です。絶対不可欠な役職と位置づけられるのであれば、プロ事業者からの視点も議論の中では顧みられるべきです。その視点からすれば、今の全日本大会は"超不良案件、超不良債権、絶対必要であるというならその対策には緊急を要する"ということになろうかと思えます。前の演説でも述べましたように、今のオリエンターリング界、種目多すぎです。大会多すぎです。フットだけで4種目、それぞれに全日本とインカレがあり、裏方作業も大変、出るのも大変、リソースはカツカツ。全日本は基本分散開催。どうみても健全ではありません。どんなに魅力的な舞台を用意しても、ダブルスタンダードがある限り、全日本に多くの学生を呼び寄せることは不可能です。みんな忙しいですから。重要行事の統合・再編は必須の改革事項なのです。スタンダードは完全シングルというわけにはいかないだろうけど、インカレ（インターハイも、そして時期的な関係から全日本チャンプ＝日本代表、となっていない現状があり、その議論もまた生じますが、少なくとも現況行われている日本代表選考会もこの相互に絡めあうイベントの一つにすればよいという投書を強化委員会委員よりいただきました）そのインカレと全日本がステップアップしていく過程において、相互に絡み合える規約に大きく書き換える、そのことは日本のオリエンターリングが、やってみると本当に面白くはまりこんでしまう人口が

それなりに継続的にある（特に学生界で）オリエンテーリングが、全日本もインカレのこの先長く継続していく為には、今後1年かけてやらねばならない最重要の改革事項である。このことを新設役職である全日本プロデューサとして、今、一番声を大きくして主張したいことです。コンサルタントとしての最重要指導事項として扱っていただきたく思います。

学連も確固たる民主的組織です、規約に則って運営されています。何か現況にそぐわない（そもそもインカレ至上主義のなかでは今の状況にそぐわない規約はないですよ、結構安住できてしまう環境ですね）、あるいは何か新しいビジョンがもたらされた（今回の私のアクションですね）、そのための規約改正を考えなければいけないとしても、合議体組織ですからその議論には1年かかります。それは民主主義の世の中、必要な手続きです。そんな中において、JOA（と言っても今表に出て来ているのは座長一人、他の人出てきなさい！JOA理事会通った重要課題なんじゃないのー？）とそのJOAの中に一時的に入り込んだ山川、この二人は緊急の危機だと言っている。学生には判りづらいたらうけど、判りづらくしたのも多分ダブルスタンダードの問題をずっと放置してきたJOAの責任だらうけど、このまま、じゃあ1年じっくり議論して来年からということに全部したら、今年1年（現実化作業の期間いれたら2年）、全日本を絶やさない為には、プロ事業者はその期間ずっと便利屋に成り下がっていなさい、ということになります。それはまあ言うてみれば、オリエンティア全員が、どんなに過酷な条件でも全日本は継続しなければいけない大会だから、今までのようにどんな条件でも何とかしなさい、とプロ事業者を脅している状態と同じではないでしょうか？そう思っていない学生がいたとしても、インカレの継続が当然という考えの裏では繋がってしまうのです。見えない所では少なからずインカレ準備にも影響は及びます。折角、硬いJOAの中に入りこんでその突破口を開け、風通しをよくしようと奮闘しようとしている人に対して今出来ることは何かないだろうか。すべて1年間議論しましょうでは、全日本プロデューサ就任の真の意味は無いと私は考えていますが、まずその立ち位置にいくばくかの共感を得たいなと思っています。もともと全日本大会改革は到底私一人でできるものではない大仕事です。こんな観点からオリエンティアの皆さんにも考えてもらいたいし、まず明日の学連幹事会、学生の利益代表である10数名の幹事の皆さんには臨んでいただきたいと思います。論点を明確にし、“来年3月まできっちり議論すること”と“今すぐ決められる即効性のあること”、この2段階で有意義な議論が展開されることを強く望んでいます。私は7人リレーの準備で今回は立ち会えないので。今日の演説はこれで終わりです。それから最後にこのことをもう一度言うておきます。学生も今はJOAの正式構成員です。全員“選手登録者”です。つまり“中の人”です。学生はその人数を盾に理知的かつ積極的に関わっていけば、JOAの改革を中から変えることができる立ち位置にいます。これ、全日本プロデューサとしての強い発言です。すべてが良い方向に進んだ時、理想の全日本大会に向かえる用意のあることは、前の演説で述べた通りです。

前回より1ページ減りました。ご清聴（拝読）ありがとうございました。

# 日本学生オリエンテーリング連盟へのお願い 全日本大会への協力について

2016年9月10日 木村佳司  
公益社団法人日本オリエンテーリング協会 全日本大会実行委員会委員長  
日本学生オリエンテーリング連盟 理事

## お願い事項

JOA(日本オリエンテーリング協会)は全日本オリエンテーリング大会の改革を行います。そのために学連(日本学生オリエンテーリング連盟)にも協力をお願いします。

### ■ 対象とする大会

#### 第43回全日本オリエンテーリング大会

開催日:2017年6月18日(日)

場所:栃木県矢板市

トレイン:「矢板日新」「矢板山田」さらに拡張

#### 第44回全日本オリエンテーリング大会

開催日:2018年6月17日(日)

場所:岐阜県中津川市

トレイン「栴の湖(拡張版)」

## 協力をお願いする内容

■ この件について学生の代表者とJOAの定期的な協議を持ちたい

### ■ 大会によるトレインの利用

「矢板日新」「矢板山田」

### ■ テレインのクローズ

「矢板日新」「矢板山田」(2017年6月18日まで)

### ■ 全日本大会に開設される学生専用クラスを

選考会として利用してもらいたい

MU(仮) 学連加盟員の男子

WU(仮) 学連加盟員の女子

エントリー人数が多ければコース分割する。分割は地区学連の者同士が競い合うように配慮する。

コースはインカレロング選考会としてふさわしいものを提供する予定

### ■ 全日本選手権参加選手への配慮

全日本オリエンテーリング大会 M/W21E クラスへエントリーした学連加盟員はインカレロング選手権クラスの出場権を付与してもらいたい。(セレ免除)

## 背景

競技オリエンテーリングの愛好者(競技人口)はそれほど多くありません。日本全体で見ても競技者として登録した者はおよそ2000名-3000名程度(学生含む)。このスポーツでは少ない愛好者同士が互いに協力し合って、このスポーツの発展に取り組んでいます。

一例として2012年12月に中止になりかけたインカレロング大会を、強引にトレイン変更してでも開催し成功させています。これは「インカレだけは開催したい」という多くのオリエンテーリング愛好家の情熱が結集した結果です。

2016年現在、日本を代表するオリエンテーリング組織であるJOAが主催する全日本オリエンテーリング大会が開催の危機に瀕しています。具体的には、つい最近まで第43回全日本大会をどのように開催するのかが決まっていませんでした。この危機に際して、JOAが取った方策は以下の通りです。

- ・地域持ち回り開催をやめてJOA直管で開催する。
- ・このビジョン策定を公募するプロデューサーに任せる。
- ・プロデューサーに応募して指名された者は山川克則。

そこで全日本大会プロデューサー・山川克則が出したビジョンは以下の通りです。

「全日本大会は学生を含むあらゆる層が一堂に競い合う場として発展させる」

「全日本大会が衰退すれば、いずれすべてのオリエンテーリングが衰退する。インカレもその例外ではない。」

「そのためにはインカレロング選考会と全日本大会を融合させ、すべての層に目標となる競技会とする。」

これを実現するために、日本学連に対して上で述べたような協力をお願いします。

以上

2016年度日本学生オリエンテーリング選手権大会  
ロング・ディスタンス競技部門関東地区代表選手選考会  
における加治東小学校体育館利用に関する報告書

## 1. 概要

2016年7月3日(日)、2016年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロング・ディスタンス競技部門関東地区代表選手選考会(関東学連ロングセレ)を開催するにあたって、飯能市教育委員会の後援の下、飯能市立加治東小学校の体育館を利用した。本大会の主催は関東学生オリエンテーリング連盟、主管は2016年度日本学生オリエンテーリング選手権大会ロング・ディスタンス競技部門関東地区代表選手選考会実行委員会(以下「実行委員会」とする)であり、使用したトレインは、「七国峠」(地図管理団体は、多摩オリエンテーリングクラブ)であった。

本大会当日、実行委員会の不手際により、渡り廊下の土足立ち入り、体育館内飲食及びゴミの放置という、利用規則を大きく逸脱するトラブルを招いてしまった。

## 2. 状況と原因

### 【大会前】

体育館を利用するにあたり、実行委員会の渉外担当者が飯能市教育委員会及び小学校の担当者(教頭先生)と連絡をとっていた。その際、体育館は昨年新築したばかりで、利用規則に十分注意するように言われていた。また、6月22日に渉外担当者が小学校へ赴き、教頭先生から直接、当日の利用上の注意事項について説明を受けている。その後、渉外担当者が本大会当日に不在のため、利用規則について文書にまとめ、実行委員会全体に共有した。この時の共有はメールリストを使った手段のみであり、当日運営する実行委員会のメンバーへの直接的な伝達はなかった。このことも、今回のトラブルを招いた原因の1つであると考えられる。

### 【大会当日】

#### ○渡り廊下の土足立ち入りに関して

当日運営していた実行委員会のメンバーは、本来土足立ち入り禁止である体育館前の渡り廊下を土足立ち入り可能だと誤って認識しており、参加者が来場する際にも、渡り廊下への土足立ち入りを許してしまっていた。渉外担当者によって共有されていたはずの利用規則について、実行委員会が十分把握していなかったことが原因であった。

土足エリアの誤認識について気づいたのは、本大会当日の昼頃に教頭先生が様子を見に来た時であった。その際、実行委員長ならびに会場担当者は、渡り廊下の土足立ち入り禁止について指摘を受けた。その後、実行委員会は参加者に対して「渡り廊下の土足立ち入り禁止」を呼びかけ、すでに土や泥で汚れてしまっていた渡り廊下は、会場担当者複数人で清掃した。箒のみでは汚れが落ちない箇所があったため、参加者が帰宅してからは雑巾も使用して可能な限り汚れを落とす。実行委員会が撤収する際には、元の状態にまできれいにしたという判断であった。

### ○体育館内飲食に関して

こちらについては、実行委員会としては会場内での水の使用厳禁を十分に認識しており、参加者への注意喚起として「会場内飲食禁止」という貼り紙を至るところに貼って目立つようにしていた。また、事前の大会プログラムやメーリングリストによる注意喚起も行っていた。本大会が終了し、参加者全員が会場から去った後は、その場にいた運営者全員で、指定されていたモップを使って体育館内を清掃し、使用した机や椅子は元に位置に戻し、施錠についても元の状態に戻した。最後に体育館から立ち去る際には、施錠確認のため、体育館の 2 階、ステージも含め、実行委員長が全体を一通りチェックし、元の状態になっていることを確認した。

### 【大会後】

渉外担当者が、本大会の翌日 7 月 4 日飯能市教育委員会より、5 日加治東小学校の学校長より、体育館の不適切な利用に関して連絡を受けた。その内容は以下の通りである。

- ①土足立ち入り禁止の渡り廊下が靴の跡で汚れていた。
- ②おにぎりの袋や空き缶等のゴミが放置され、体育館内での飲食の形跡が残っていた。
- ③飲食物を踏みつけたような残骸や「往走」と書かれたテープも残っていた。

この時点で、①に関しては上記の通り、実行委員会による重大なミスによって招いてしまった結果であると深く反省していたが、②、③については心当たりがなかったため、その時会場にいた実行委員会のメンバーに事実確認をした。また、本大会終了後に体育館を使用した別の団体によるものだとも考えられた。しかしその後、教頭先生との事実確認を含めた電話により、教頭先生自身が本大会当日に体育館内で飲食をしている参加者を目撃しているということが発覚した。本大会当日は、最高気温 35 度の猛暑日であり、2 時間近いレースを終えた参加者が会場に戻ってきていた。そのような状況では、飲食禁止の貼り紙だけでは完璧に規則を守ってもらう対策としては不十分だったと判断される。

また、おにぎりの袋と空き缶の放置については、ステージの奥で見つかったとのことで、清掃の際に確認はしたが見逃した可能性がゼロであるとは言い切れなかった。飲食物を踏みつけたような残骸や「往走」と書かれたテープに関しては不明のままであったが、上記のように既に利用規則を大きく逸脱するような行為をしてしまっていたことから、状況的に実行委員会の責任によるものだと判断した。

今回のトラブルは、実行委員会として公共施設を利用することに対する認識の甘さ、不十分な運営管理が原因となって招いてしまった結果である。

### 3. 今後の対応策

今回の件により、加治東小学校及び飯能市教育委員会の皆様、ならびに地域のお住まいの皆様に対して、オリエンテーリングに関わる方々全体のイメージを悪くすることになってしまった。今後、オリエンテーリングの活動をするにあたり、今回のようなトラブルを

決して起こさぬよう、対応策を以下のように考えた。

### 3-1. 今回のトラブルの周知

- ・本大会の参加者は、主に関東学生オリエンテーリング連盟に所属する大学生であり、各大学・クラブを通して今回の問題を周知する。
- ・関東の学生に留まらず、各地域の学生連盟を通して学生全体に周知する。（関東以外の学生の参加者もいた。）
- ・その他の参加者については、日本オリエンテーリング協会、地域のオリエンテーリング協会（埼玉県）、地図管理団体（多摩オリエンテーリングクラブ）等を通して周知する。

### 3-2. 公共施設の利用に関して

- ・基本的に施設利用申請に関する手続きを行った者は、施設利用当日に出席して利用規則遵守の責任を負う。
- ・やむを得ない事情で手続きを行った者が出席できない場合は、代理の責任者を立てて、利用規則について確実な方法（文書且つ口頭による方法等）で引き継ぎをする。
- ・可能な限り第三者（管理者等）による施設の最終確認を依頼する。
- ・オリエンテーリングのイベント開催時には、各クラブ・団体が、参加する会員に対して「公共施設の一般的な利用規則」に加え「その施設独自の利用規則」（館内飲食禁止等）を周知徹底させる。
- ・オリエンテーリングは競技の性質上、レース終了後に汚れたシューズやソックスで会場の出入口付近を土や泥で汚してしまう可能性があるため、出入口付近をブルーシートで覆って濡れ雑巾を用意する等の事前予防策を講ずる。

## 4. 連絡先（本大会の責任者）

実行委員長 福井悠太

今回の失敗の再発防止策

今回の大会での失敗を踏まえ、以下の3点について、改善案を打ち出します。

### 1 飲食について

・体育館など飲食禁止の体育館などでは、外に飲食可能なスペースを運営側から指定する。それにより、飲食禁止を参加者に意識付けすることができ、また、会場でごみが散らばることが少なくなる。

・参加者側に、飲食禁止の場合水もダメなのか、という意識があったようだ。地域の体育館によっては水分補給以外の飲食を禁止する、という張り紙のある体育館もあるようだ。貸していただける体育館に水分補給をしてよいかどうかまで伺うのが良い。

### 2 片付け・ごみ

・参加人数が多いのにも関わらず、運営側に片付けまでお願いしていることに問題があった。当番を決めて、学生が掃除を行い、チェックするという形をとることで、今回のような目の行き届きにくいところでのごみの放置などにも時間が取れるようにする。掃除も人数をかけて徹底的に行う。

・もちろん、当番でない学校も、自分たちでゴミを持ち帰ることを徹底する。各学校数人で自分たちの利用したエリアにごみが落ちてないかどうかチェックする。

### 3 泥など

・まずは土足禁止のエリアを守ることを徹底する。靴下・服などについてる泥を払うことも忘れない。

・しかし、それでも泥を完全に持ち込まないのは無理がある。そのため2での掃除を徹底するようにする。

・トラブルが発生したのちの対応はもっと緊密に行うべきであった。それは学連が実行委員会に運営を丸投げし、当事者意識に欠如があったことに原因があるだろう。大きな大会だけでなく、普段の練習会についてもトラブルがあれば一週間以内に学連に報告するようにお願いしている。それについても再度周知する必要がある。